

社会人のための情報システム誌  
— 経営近代化のシステム研究 —

# Computer Report 1

2016 No.736

## 3 はじめの言葉

## 4 マイナンバー運用の不安と

住基システムとの整合性

田原文夫

マイナンバーの配布が始まり、その行方が取り沙汰されている。開発担当の思い付きで開発されたシステムが、運用段階で機能しないというのはよくある話だが、まさにそれに近い。先の住基システムの二の舞にならなければいいのだが。

## 10 情報社会を考える その64

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

福祉と IT 先進国の輸出品目

福祉と IT の先進国だということで、北欧 4 国（スウェーデン、デンマーク、ノルウェー、フィンランド）を訪ねてから、足かけ 16 年になる。2000 年のことだった。その年は、日本で介護保険制度がスタートした年でもある。主に老人福祉施設での取材をしたのだが、最初の取材先で、まず取材インタビューは有料だが了承してくれるかと言われた。いくらだと聞くと、たいした金額ではなかったことと、北欧まで出かけて手ぶらで帰ることなどできないので、要求通りの費用を払った。その理由説明がふるっていた。

## 12 オープンガバメント OG 25

情報社会をすすめる

その 59

水田 浩

1990 年代に紙によるワークフローをデジタルにして、メインフレームと端末を使って事務系、技術系で個別に行われるようになり、1995 年代にはインターネットが世界中で使えるようになってきた。そして、個別に開発されたシステムをより早く、より安く、より良くつかうために製品やシステムのライフサイクル全体の統合化を模索するようになっていた。そして、産業別、国別のシステムとデータを世界共通にしてより生産性の高いビジネスをするために、世界共通の情報基盤を作らなければならないという認識が世界中で起こっていた。そこで、CALS の一つの製品、システム、サービスを全ライフサイクルで、「情報は一度つくって、幾度も使う」という運動は世界規模で受け入れられた。一つの CALS という概念（言葉）で 1995 年から 2005 年に掛けて世界中が一つになって運動を起こすようになった。

## 19 連載 アーキテクチャ論 (57)

O-DA を用いた

アーキテクチャ品質保証サービスの構築例

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

ソフトウェアの信頼性を向上するために、第三者による検証サービスが日本でも提供さ

れるようになってきた。たとえば、異なる企業から提供される製品間の相互接続性のテストなどは、製品開発企業ごとにテストするよりも、独立した検証サービス企業が実施する方が経済的である。今回は、アーキテクチャが期待される特性を持つことを保証するためのサービスとして、O-DA (Open Dependability through Assuredness)[1]を用いたアーキテクチャ品質保証サービスの仮想的な構築例を説明する。

## 2 9 新春放談 全地球規模で問われる国家の安全保障 黒坂欣司

昨年は例年にも増して、世界でいろいろなことが起きた。中国の南沙の埋め立て、軍事基地建設に対し、アメリカの抗議は具体的示威活動に至った。その後、オーストラリアも同様な展開をしている。一方 IS (イスラム国) によると思われるエジプトでのロシア航空機の爆破行為、年末にはパリで 130 名の犠牲者を出したテロが起きている。アメリカでも IS のシンパと思われる男女による銃撃による殺人事件があった。もはや事件だ、テロだとは言えない段階である。

## 3 3 連載 日本再生と人材育成 人口減少／少子高齢化時代への挑戦 その 1 2

### 第 6 話 NKK を振り返って

#### この半世紀の経済推移と NKK の事業変遷 Dr.ベスト

マルチ人間、スーパー人間と呼ばれてもいいほど、高度成長時代からバブル崩壊、そして今日に至るまで 4 回の定年退職 (1 回目: 企業の早期退職制度に基づく退職 (52 才)、2 回目: 同企業の関連会社における定年退職 (60 才)、3 回目: 某大学における定年退職 (65 才)、4 回目: 別の大学における定年退職 (70 才)) を経験しながらも「情報と人材」をテーマに働き続けてきた男がいる。その男の生き方は人口減少／少子高齢化時代への挑戦に何らかのヒントを与えることができるのではないと思われる。その半生を「履歴書」的に紹介させていただきたい (編集部)。

## 4 1 IT 新時代とパラダイム・シフト 第 7 4 回 急増する訪日観光客に

### シェアリングエコノミーは救世主となれるか 根本忠明

2015 年も訪日観光客は増加の一途を辿り、2013 年 2 月以降 34 ヶ月連続で各月の最高記録を更新している。しかし、宿泊施設や輸送機関などの観光資源の不足が深刻化している。この打開策として注目されているのが、ICT を活用したシェアリングエコノミーである。この実現には、政府主導による大幅な規制緩和が必要になるが、監督官庁ならびにそれぞれの業界が、強く反対している。今回はこの現状について紹介する。

## 4 4 続インテリジェンスへのいざない 72

### 情報管理を対テロセキュリティ対策に活かす 今井 武

韓国人男性によるとみられる靖国神社での爆発事件。犯行後いったん帰国しながら、再入国してきた。不適というよりも、何とも不可解な行動だ。爆発物が飛行機で国外から持ち込まれ、それが機内で爆発していたらと思うとゾッとする。日本もテロ攻撃のすぐ隣にある。

## 4 7 連載 四字熟語カトレーニング すぎやまちヒロ

## セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における  
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで  
株式会社 日本経営科学研究所  
ComputerReport編集部

[cr-info@jmsi.co.jp](mailto:cr-info@jmsi.co.jp)

# CR 選書のご案内

**CR選書**

**改訂版**  
**データ・ウェアハウス**

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁

石井 義興 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**実践データ・ウェアハウス**  
**OLAP**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁

豊島一政・木村 哲 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構築
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**消費者行動論**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁

田原文夫 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

aism 研究活動報告  
**インターネットセキュリティの**  
**落とし穴**

一橋大学教授 安田 聖 監修  
aism情報セキュリティ・マシントリ研究会 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁

**目次**

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリ研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛セキュリティ心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2014年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

エンタープライズ情報システム設計の基本書！  
**トップ主導の**  
**情報システム革新**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁

高田 顯重 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**計量モデルの構造と解法**  
**—オーダーリングとスパース—**

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁

安田 聖 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分割方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

**CR選書**

**『いざ！というときの(得)広報』**  
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁

加藤 洋一 著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文も企業体質
■ ニュースリリースは東方向運賃	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 記事とうまく付き合うための鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)

---

**ザ・ワールドリンク**  
がんばれ、国際グローバルサーバー—  
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁

迫 忠幸・湯浅 誠 共著  
(株) 日本経営科学研究所 発行

**目次**

第一章 発端	第十一章 日本開港手帳の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米網チーム崩壊の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たなメンバー
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米網専務所長と新たな組み
第五章 FJO、IBM戦争	第十五章 開港手帳とハンタツ
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本務後日誌
第八章 米網チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働中の一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米網チーム、異なる三人組	第二十章 稼働中の二 安室隆雄と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは [cr-sale@jmsi.co.jp](mailto:cr-sale@jmsi.co.jp)